



アメリカ西海岸の玄関口としても有名なサンフランシスコ。気候は温暖で、春から秋までは雲一つない抜けるような青空が広がっています。フィッシャーマンズワープでアルカトラズ島を眺めながら食事して、ゴールデンゲートブリッジを眺めつつ散歩。ケーブルカーでブランドショップが集まるユニオンスクエアへ移動。ブランドショップを横目で眺めつつ、西海岸では初の出店となったユニクロでTシャツや靴下を買いだめして、車でフリーウェイを飛ばして帰る…。自分の人生の中でこんな休日を送ることがあるとは、留学する1年前までは全く思ってもいませんでした。

そんなサンフランシスコから車で南下すること約1時間、いわゆるシリコンバレーといわれる地域の一角に、私が昨年6月より留学させていただいているスタンフォード大学があります。スタンフォード自体が地名になっているほどの大きな大学であり、大学構内を巡回する無料バスがあるほどです。構内は歴史的な建造物や美術館がある一方、近代的な研究施設やオフィスが緑豊かなキャンパス内に点在しています。構内は一般にも開放されており、広大なキャンパス内を散策する人や芝生でランチをしている人たち、そしてあちこちらに出没する野良リスたちに良く出会います。また大学周辺は高級住宅街でもあり、アメリカでも有数の治安の良さを誇ります。そのため、家賃は全米でも高く派手な生活はできません。しかし冒頭にも述べたとおり、車で1時間足らずでサンフランシスコに、2時間で美しい海を堪能できるモンレー湾や、広大

なブドウ畑とワイナリーが立ち並ぶナパバレーへ、さらに4時間でアメリカの大自然を実感できるヨセミテ国立公園へたどり着けるため、さほどお金を使うことなくアメリカを満喫することができます。

さて、ただの観光案内になってしまいそうなのですが、私の所属する Center for Cardiovascular Technology (CCVT) についてもご紹介します。このCCVTはStanford University Medical Center, Division of Cardiovascular Medicineの一部門として存在しています。主に血管内超音波 (Intravascular Ultrasound: IVUS) や光干渉断層法 (Optical Coherence Tomography: OCT) といった冠動脈の画像診断法を用いて、動脈硬化に対する治療の画像診断的評価やそのメカニズムの解明および予防法の検討、また冠動脈ステントの評価や新規開発に携わっています。さらに、多施設共同大規模臨床研究における画像診断の Core Analysis Laboratoryとして世界中からデータを受け取り、日々診断、解析を行っています。我々のボスであるDr. Peter J. FitzgeraldはIVUSのパイオニアであり、それゆえ常に新しい技術開発などにも積極的に挑んでいます。

海外での研究発表をきっかけに留学に興味を持ち、手探りであちこちの施設に手紙を出してから留学に至るまで1年。当初は留学できる見込みは全くなかったものの、あきらめずに活動している間に多くの方々からご援助をいただくことができ、今回の留学の実現に至りました。留学後も、慣れない海外生活と英語の環境に戸惑うばかりで、決して楽しい毎日を送ってきたわけではありません。しかし、この環境に慣れるに従い、かつてない研究に特化した毎日を送れることのあるがたみを実感できるようになってきています。この機会を十二分に生かし、日々研鑽を積み、今後の長野県の循環器医療に貢献できるよう努力していく所存です。

最後になりましたが、このような貴重な留学の機会を与えてくださった信州大学循環器内科の池田宇一教授をはじめ、多忙の毎日を送られている信州大学循環器内科医局員のみなさまに心から厚く感謝申し上げます。

(2013年2月)

(信州大学医学部循環器内科学講座所属)